

カトリック 仙台教区報

No.260

2025年9月1日

発行：カトリック仙台司教区

〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12

Tel. (022)222-7371 Fax. (022)222-7378

発行責任：仙台教区広報委員会

URL <http://sendai.catholic.jp/>



「アブラハムと三天使」モザイク／サンタ・マリア・マッジョーレ（ローマ）

神様のおもてなし

アブラハムが自分の天幕に客を3人迎え入れた場面（創世記 18・1-10a）は、7月20日の年間第16主日（C年）の第一朗読です。ある年、この朗読を聞いていた時、アブラハムが客人に対して行ったもてなしのありがたさを想像させられたことがありました。私はその日曜日のミサの途中、喉が渇き一杯の水がとても飲みたかったのです。その日のミサ後、飲んだ一杯の冷たいお茶で、生き返ったように感じました。灼熱の砂漠の地において、もてなしは疲れ果てた旅人を癒す行為なのです。

アブラハムは、客人たちが誰なのか知りませんでした。ヘブライ人への手紙13章2節は、「旅人をもてなすことを忘れてはいけません。そうすることで、ある人たちは、気づかずに天使たちをもてなしました」と戒めます。主イエスご自身も、最後の審判のたとえ話で「はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」（マタイ 25・40）と教えられます。

主イエスがエルサレムへ向かう途中、マルタとマリアの家に滞在した場面（ルカ10・38-42）は、年間

第16主日（C年）の福音箇所です。2013年の初夏、私はある巡礼地への道を一部徒歩で旅しました。10日間で240キロメートルほど歩きました。一日歩いた後、屋根の下でくつろぐありがたさを感じ、主イエスがマルタに述べられた「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。必要なことはただ一つだけである」という言葉の意味が理解できたような気がしました。巡礼中は、休ませていただきながら、旅で気づいたり、学んだりした事柄を小出しにして話し、「一緒に旅して、良かった」、「明日も目的地へ向かって旅を続けましょう」という喜びを分かち合うこと、これは、旅の途中に必要なことだとおぼえたのです。

耳にタコができるほど聞いた言葉を、あえてここで改めて紹介します。それは、ギリシア語から来ている「シノドス」という言葉です。この言葉は、「ともに」を表すシンと「道」を表すオドスから成り立ち、「ともに歩む」教会の姿を指しています。教会用語としてシノドスは、教皇の諮問機関の一種である「世界代表司教会議」も指しています。1965年10月に設立されたこの会議は、比較的に新しい教会組織です。

教皇フランシスコ(任期2013年3月―2025年4月)は、前任者聖パウロ六世(1963年―1978年)、聖ヨハネ・パウロ二世(1978年―2005年)、ベネディクト十六世(2005年―2013年)と同様に世界代表司教会議の方法の改善を求められる一方、組織の精神、必要性和素晴らしさを評価されました。教皇の世界代表司教会議の設立50周年記念式典(2015年10月17日)の演説を改めて読み、この言葉が私に響きました。

「わたしたちはこの道を歩み続けなければなりません。わたしたちが生きている世界、わたしたちがその矛盾の中にあっても愛し、奉仕するよう呼ばれているこの世界において、教会はその使命のすべての分野における協力を強化していくよう、強く求められています。……ある意味、主がわたしたちに求めておられることは、すべて「シノドス」(共に歩む)ということばの中にすでに含まれています。信徒と司牧者とローマの司教が共に歩むこと、それをことばでいうのは簡単ですが、実行に移すことは、それほど容易ではありません。」

教皇フランシスコが言及された共に歩む難しさは、私たちには無縁ではありません。「話し合いたい、でもコロナ禍の後、ミサ以外集まらない」、「『反対』とすぐ言われたら発言する勇気を失ってしまう」、その声がしばしば聞こえます。話し合いが激しくなり、「互いに忍び合い、責めるべきことがあっても、赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたも同じようにしなさい」(コロサイの信徒への手紙3・13)、「ですから、あなたがたは、現にそうしているように、励まし合い、お互いの向上に心がけなさい」(テサロニケの信徒への手紙一5・11)といった使徒パウロの言葉を忘れることもあります。

教区は世界教会の一部であり、縮図でもあります。司祭と司教は司牧者として信徒と歩みます。私たちに必要なことは、小教区においても教区においても相互理解を得るための精神と方法ではないでしょうか。

世界代表司教会議(シノドス)第16回通常総会は、「ともに歩む教会のため―交わり、参加、そして宣教」

をテーマに、2021年から24年にかけて、世界中で行われました。2024年10月に開催された第2会期で代表たちが総会の「最終文書」を承認しました。この文書は、道標として受けて、示す指針を見い出していきたいと思います。

聖霊は私たちの旅を導いて、私たちを一つにしてください。司教としての出発点を振りかえってみれば、私の霊的生活や使命を表すモットーと紋章をこのように説明しました。



「『心も思いも一つに』(使徒言行録4・32)。一つになることは聖霊の実りであるとともに、私たちが切に望むたまものでもあります。紋章の上半分は、聖霊の働き(鳩)と人間の思い(心)の調和を表します。下半分は、十字架と漢字の「心」から成ります。これは、いつくしみ深い神と、真(まこと)を求めるさまざまな人間が近づきあい、互いの思いが響きあっていることを示します。主イエス・キリストに倣う教会は人々と共にうめき、『あなたは一人じゃない』と呼びかけ、苦悩し、祈り、希望し、助けあい、笑いあい、感謝をささげます」。

人から優しい振る舞いを受けられた主イエスは、旅する私たちに「疲れた者・重荷を負う者、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」(マタイ11・28)と呼びかけられます。神様のおもてなしへ招く言葉と聞こえます。

カトリック仙台教区 教区長
ガクタン エドガル司教



シノドス流の教会 交わり、参加、宣教《シノドス最終文書》

教皇とシノドス通常総会の連名によって出された「最終文書」。

革新的なシノドスが示す方向づけ。

シノドスの流儀で歩み、それぞれの召命、カリスマ、奉仕職を織り合わせつつ、福音の喜びを届けるためにすべての人と出会おうとすれば、わたしたちは救いとなる交わりを味わうことができるはずです。(以上は本書の帯の言葉です。)

「わたしはこれまで歩んできたシノドスの旅の価値を認め、本「最終文書」に示されている指示のすべてを今教会に手渡します。この文書は、聞き取りと識別によって、数年かけて熟したものの報告であり、教会の生活と使命のための権威ある方向づけとなるものです。」(教皇フランシスコによる付記からの言葉です。)

日本カトリック司教団・諸教区の活動



8月5日 広島教区カテドラル世界平和記念聖堂で行われた「平和祈願ミサ」
主司式は菊地功樞機卿、ガクタン エドガル司教も参加した

日本カトリック司教協議会

カトリック中央協議会会報(2025年7月号(633号))によると6月16日(月)から20日(金)に開催された、2025年度定例司教総会において、日本カトリック司教協議会の各種委員会の委員長と担当司教が審議された。日本カトリック司教協議会のホームページ(cbcj.catholic.jp)に記載されている各種委員会は次のとおり。

- ・常任司教委員会 ・福音宣教司教委員会
- ・社会司教委員会 ・広報宣教司教委員会
- ・「事業」カリタスジャパン

その中で、仙台教区の司教であるガクタン司教と関係あるものだけをお知らせすると、常任司教委員会直轄委員会関連の中では、司祭・終身助祭生涯養成委員会委員長としてガクタン司教が任命され、社会司教委員会関連の中では、日本カトリック正義と平和協議会の担当司教の責務が委ねられた。

平和を求めて

「正義と平和」という言葉を聞くと、いちばん人々の心と頭にすぐ浮かんでくるのは、8月6日と9日の広島、長崎の原爆の日であろう。

日本では、ヨハネ・パウロ二世教皇が1981年初めて日本を訪問された時、広島で「平和アピール」を全世界に向けて発表された。この「平和アピール」は、世界中の人々の心に戦争の恐ろしさを訴え続けている。

これを記憶して、翌1982年、8月6日～聖母被昇天の祭日であり、終戦の日である8月15日までを日本の司教団は「平和旬間」として、この期間、日本の教会の全ての信徒、修道者、司祭、司教が、教皇と一致し、日本の教会として、平和のために考え、祈り、行動する10日間と定めた。

仙台教区では、このために、毎年「平和を求めるミサ」式次第、と共同祈願を教区内の小教区に送っている。今年も、この教区報が届くときには、各小教区では「平和ミサ」がささげられたであろう。

今年は、特に戦後80年ということで、社会でも、教会でも、戦前・戦中・戦後を振り返り、平和についてもいろいろな歴史の掘り起こしや、発言がなされている。

こうした中、日本カトリック司教団では、今年 次の二つのメッセージを発表した。

1つは「平和を紡ぐ旅 ―希望を携えて―」

戦後80年司教団メッセージ

日本語
JPN



英語
ENG



もう1つは日本カトリック司教団
核兵器廃絶宣言 2025

日本語
JPN



英語
ENG



※上記 QR コードからダウンロードできます。

これまで、日本の司教団は、戦後の節目ごとに、日本社会に対し、平和についてのメッセージを公にしてきた。

戦後50年には「平和への決意」、

戦後60年には「非暴力による平和への道」～今こそ預言者としての役割を～、

戦後70年には「平和を実現する人は幸い～今こそ武力によらない平和を」という訴えをしてきた。

今年の戦後80年司教団メッセージには、特に若者に向けて、歴史的事実を記憶にとどめ、平和の大切さを伝えていかなければならないという強い思いがあり、さらに2024年、ノーベル平和賞を受賞した「日本原水爆被害者団体協議会」のメンバーたちが、日本政府に対し、「一刻も早く核兵器禁止条約の署名、批准に向けて行動することを強く求めている」ことから、司教団はこれまで、自分たちが核兵器廃絶という司教団見解を公にしてこなかったことに気づき、戦後80年の今年、その態度を公に表明することを決定、発表したものである。

広島教区・長崎大司教区

今年の広島教区の2025平和行事は、「原爆投下80年 平和への希望をあらたに ～核廃絶をわたしたちはあきらめない～」というテーマで、8月5日、6日、9日の3日間行われた。8月5日(火)13時から、エリザベト音楽大学セシリアホールで、被爆者団体と日米韓司教有志の平和集会「被爆80年核兵器廃

絶のための協働をめざして」が行われた。



このシンポジウムの中で、ガクタン司教が日本の司教団を代表して「核兵器廃絶宣言 2025」を読み上げた。

わたしたちは、キリストの福音に従い、対話を通じた平和の実現を目指し、すべての人の生命と尊厳を守るために、核兵器を完全廃絶するよう強く求めます。

わたしたち司教団は、以下の行動を続けます。

- ・被爆の実相を世界に伝え、核兵器の非人道性を訴え続けます。
- ・核兵器廃絶を目指す国内外の運動と連帯し、その実現に向けた行動を推進します。
- ・核兵器禁止条約(TPNW)の理念を支持し、日本政府が一刻も早くこれを署名・批准するよう働きかけていきます。
- ・平和教育や啓発活動を通じて、次世代に平和の理念を引き継ぎます。

長崎大司教区では、「被爆80年 長崎 2025夏」を平和への祈りと学びを目指し、種々の計画が立てられている。

原爆投下によって浦上教会の小鐘は大破したが、戦後80年の今年、同型の小鐘がアメリカの信徒の力によって復元され、浦上教会に寄贈された。原爆投下の8月9日11時2分に、初めて平和の祈りの鐘が響いた。同日、「平和祈願祭」として浦上教会で18時からミサ、その後20時から爆心地公園までたいまつ行列を行なわれ、核なき世界のために子どもたちが集めた献金と、青年たちが集めた署名がささげられた。

その他、長崎大司教区が、長年培ってきた平和教育、平和への思いが各種の企画に込められている。以下それを簡単に紹介しよう。

- ・「平和作文コンクール」—7月20日～10月26日 必着で、長崎大司教区の信者、求道者の小学生～高校生まで。テーマは平和や原爆についてなどの例が挙げられている。
- ・「聖体の永久礼拝」—8月8日(金)20時～9日(土)17時まで、浦上教会で。
- ・「ともに歩む平和の巡礼者の集い」—8月10日(日)14時～17時、浦上教会
- ・「第53回原爆殉難者慰霊祭」—8月8日(金)18時30分～
- ・「高校生沖縄平和学習」—8月18日(月)～20日(水) 対象：高校生 現在の沖縄を体験

仙台教区

第42回 日本カトリック 正義と平和 全国集会 2025 仙台大会 「希望は欺かない」

一大震災から14年

つなぐ思い 国籍を超えて
歩む平和への道—



ガクタン司教は、6月に「正義と平和協議会」の担当司教となったが、仙台で大会が開催されることを引き受けた時からこの大会の実行委員長を担っている。

ガクタン司教は言う。「私は、司教になってまもなく仙台での大会開催の話を受けました。というのは、仙台教区は、14年前の東日本大震災のとき、全日本の教会の皆さんが、ボランティアに来てくださったり、物資の支援をしてくださったり、本当に物心両面で支えてくださり、これまでに復興することができました。私も、大船渡ベースで、ベース長をしていましたので、その時のことは忘れることができません。それで、私はいいですよ、と言いました。今こそ皆様から頂いたすべてに対して少しでもこの心を示したいと思ったのです」と。

こうして、着々と準備されて、10月11日(土)～13日(月・スポーツの日)の計画が発表された。

初日の11日は「見る」—フィールドワークの日

- ・南相馬方面 ・大船渡・南三陸方面
- ・石巻・女川方面

の三か所に分かれての「見る」——どこに行きたいかは、参加者が前もって選ぶことになっている。

参加は自由。

2日目の12日は「判断する」日

9:30 主日のミサ(元寺小路教会大聖堂)

—参加自由

13:00 受付(元寺小路教会大聖堂入口)

14:00 開会式(元寺小路教会大聖堂)

〈基調講演〉

「震災と原発事故の経験

—そこから平和のためにできることは何か」

講師：幸田和生司教(東京教区名誉司教)

〈シンポジウム〉

シンポジスト：

舘脇章宏(「みやぎ脱原発・風の会」事務局長)

中筋純(写真家・フリーライター・編集者)

司会進行：古屋敷一葉(援助修道会 会員)

3日目の13日「実行」

たくさんの分科会が準備されている。

午前中と午後に別々の分科会があり、会場も元寺小路教会内の会場と、一つの分科会は北仙台教会で行われる。

〈分科会〉

1. 「戦後80年 広島原爆、そして教皇フランシスコ」

講師：梶山義夫（イエズス会司祭）

イエズス会社会司牧センター所長
教皇フランシスコの回勅『兄弟の皆さん』と、広島、長崎での講話を礎として平和への道を考える。

2. 「沖縄の夢～沖縄を戦場から非武装中立平和特区へ」

講師：ウェイン・バート那覇教区司教

沖縄は80年間、「戦争を二度と繰り返さない！
繰り返させない！」と叫び続けてきた。
「より正義にかなう安全な社会を築きたいと真に
望むならば、武器を手放さなければなりません」
「非武装の平和以外にはあり得ません」。

3. 「福島原発事故の実相を伝え続けていくために！」 ～広島・長崎に原子爆弾が投下されてから80年 を迎える今年 改めて、福島県原発事故の実相に ついて考え、分かち合ってみませんか？～

講師：高瀬つぎ子（福島大学共生システム理工学類
理学博士 カトリック信者）

福島原発事故の実相、①放射性物質による環境汚
染、②知己社会のコミュニティーの分断、③原発
の廃炉作業の現状と今後の見通し、④原発事故時
の避難の困難さ、について考え、分かち合うなかで、
皆様が核に依存しない平和で安全な世界に向かっ
て歩み続ける力が得られることを願っています。

4. 「東日本大震災14年の歩み」

～復旧・復興、そして今、今後の課題は～

講師：根本摩利（一般社団法人カリタス南相馬所長）

菅原圭一（元カリタス大船渡ベース長）

千葉道生（一般社団法人カリタス南三陸代表理事）

2011年の大震災のとき、日本のカトリック教会
は8か所にボランティア拠点を立ち上げ、支援活
動を続けてきました。この14年間のベースでの
活動を通して感じていること、えてきたことをお
話しいたします。

5. 「再稼働女川原発の危うさと未来への道筋」

～被爆前提避難計画で命は守れない！

原発は廃炉でしかない～

講師：日野正美（女川原発の避難計画を考える会）
仙台教区内には、福島原発、女川原発、青森県六
ヶ所村のあることを皆さんはご存じですか。今後、
日本各地で起きる震災、津波、災害に、何を、ど
う対応していけばいいのでしょうか。この14年
の活動を通して、見えてきたことをお話ししよ
うと思います。



6. 「世界情勢・現代世界の平和の行方

～ストップ・ザ・ジェノサイド in ガザ」

講師：石川雅之（パレスチナと仙台を結ぶ会）

パレスチナだけではなく、ウクライナ、ミャンマ
ーなど世界中で虐殺・ジェノサイドが起きていま
す。これは犯罪です。今年ガザへ行かれた時の現
地の様子もお話しいたします。

7. 「ハンセン病問題の過ちを繰り返さないために」

～社会司教委員会発効 冊子「すべてのいのちを
守る教会をめざして」をもとに考える～

講師：園部英俊（元日本カトリック部落差別人権
委員会委員）

「優生保護法問題の全面解決を目指して」

講師：横川光（優生保護法被害者と歩むみやぎの
会事務局メンバー）

優生保護法問題と裁判の闘いを知り、命の選別や
社会の差別・偏見をなくすために、私たちができ
ることを考えたいと思います。

8. 「ともに生きるために

～教会とつながる実習生たちの光と影」

講師：Sr. ヌエン・ティ・バッチ・マイ

（善き牧者の愛徳聖母修道会）

教会とつながっている外国人実習生の置かれた場、
存在などの光と影を皆さんと共に考えたいと思い
ます。

9. 「ホームレス支援活動一炊き出し25年の歩み」

講師：佐藤多鶴子（カトリック正義と平和仙台協
議会炊き出しグループ代表）

さまざまな事情で行き場を失った人びとに寄り添
い、「いのち」をつなぐ食事の提供などの支援活動
を続ける中で、見えること、感じること、思いな
どを分かち合えればと思います。

15:30 派遣のミサー元寺小路教会大聖堂

閉会后：ネットワークミーティング

（参加自由）

本大会のテーマや、分科会の内容は、多岐にわた
っているように感じるかもしれないが、これは、「正
義と平和」という単純な言葉が含む、多くの社会問
題があるためである。また、原発といっても、原発
事故後のフクシマの問題と、危うさを持つ再稼働さ
れた女川原発の問題があり、広島、長崎の原爆の問
題もある。沖縄の基地問題もあり、ハンセン病の問
題もある。さらに、技能実習生の問題もある。現代
の世界情勢の問題、ホームレスの問題など枚挙にい
とまがないほどである。

これらすべての問題が、すべて「正義と平和」とい
う問題とからんで問題視されているのである。

ここで言われる「正義と平和」を一言で表現しようと思うならば、イエス・キリストがおっしゃった「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」(ヨハネ 13・34) というみ言葉になろう。

仙台大会では、「見る」「判断」「実行」という手法を用いて、幾つかの課題について話し合っていきたいと計画されている。

小さな行動、活動と感じられても、「体は一つでも、多くの部分からなり、体のすべての部分は多くても、体は一つであるように、キリストの場合も同様である」(1コリント 12・12) とパウロは言っている。私たちは一人であっても、キリストにおいて、有機的に結ばれている体なのである。

短い3日間とを感じる人もいるだろう。やっと休みを取ってきたのだ、と言う人もいるだろう。それぞれのところから、それぞれの多様な人が参加している豊かな全国大会に参加して「よかった」「勉強になった」「友人ができた」と感じてほしいと思っている。

ガクタン司教の勧めのことば・・・・・・・・・・

仙台教区の皆さま。「第42回 日本カトリック正義と平和 全国集会 2025 仙台大会」に、ぜひ、参加していただきたいと思います、お知らせしております。

プログラムをご覧になり、興味あるお話しが必ずあると思います。その時には、ぜひ、ご参加ください。

10月12日(日)は、午後2時からの開会式に続き、基調講演、シンポジウムがあります。参加自由ですので、お皆さまをお待ちしております。

各地区からのお便り

第1地区より

〈青森・下北ブロック／本町教会〉

〈弘前ブロック／弘前教会〉

世の和解のためのパン種、

一致と交わりのしるしである教会

5月24日(土)本町教会で仙台教区長ガクタン エドガル司教ご臨席の第1地区連絡協議会を開催、翌25日(日)弘前教会(聖年指定巡礼教会)で荘厳ミサがささげられました。



この時の司教様のメッセージは以下の通りです。

神の恵みで、教皇レオ 14 世が誕生されました。教皇就任ミサの説教をもとに皆さんへお話いたします。兄弟姉妹の皆様、私の第1地区への大いなる望みはこれです。教皇の言葉と同じく「世の和解のためのパン種となり、一致と交わりのしるしである教会」となることです。私の司教のモットーは、使徒言行録 4章 32節「心も思いも一つに」という言葉です。一つになることは、聖霊の実りです。主イエス・キリストに倣う私たち教会は、人々とともに祈り、悩み、

希望し、助け合い、笑い合い、感謝して歩んでいます。今日の集まりは、その教会の活動の一環です。ここに来た第一の理由は、仙台教区の一致を築くためです。 松田 大(浪打教会)

〈三ハブロック／八戸塩町教会〉

合同堅信式・インターナショナルデー

ガクタン エドガル司教様、パトリック・カストロベルデ、ジャスティン・ルクサ両神父様の共同司式で、6月22日(日)午前10時から、八戸塩町教会にて2025年三ハブロック合同堅信式 & インターナショナルデーが行われました。8か国220余人が参加し、10人の方が堅信を受けられました。おめでとうございます。

第1地区の他のブロックから7人の方も参加してください、聖堂以外に玄関ホールに設置したモニターを見ながらの参加者もいるほど大盛況でした。

入祭の歌で「希望の巡礼者」を歌い、各国の言葉で、歌、朗読、答唱詩編が行われ、ガクタン司教様の説教は、聖体「キリストの体」の意味について、聖霊について、今日の福音について述べられました。その後、堅信式が行われ、「洗礼の約束の更新」、「按手」、「塗油」等の儀式が粛々と行われました。



共同祈願や奉納祈願も各国の方が行い、聖体拝領の後、受堅者を代表して角掛砂織さんがガクタン司教様へ花束贈呈を行いました。そして、堅信証明書・記念品をガクタン司教様から受堅者に授与していただきました。

閉祭後、祭壇付近で約170人で記念の集合写真を撮影しました。



ミサの後、イメルダ幼稚園園庭で交流会を開き、交流会の司会も、各国語で行われ、開会宣言、ガクタン司教様のご挨拶、パトリック神父様の乾杯でスタートし、各コミュニティー・小教区の紹介、クイズ、各コミュニティーの余興と続き、お食事タイムの各国の料理は、日本は「焼きそば」と、「日本そば」。ベトナムは、「ソイ」(ベナムのおこわ)、副菜は、ソーセージ、卵焼き、揚げ春巻き、ドライオニオンなど。フィリピンは、ルンピア、ルーガウ（フィリピンのお粥）とマカロニサラダでした。おいしくいただき満腹でした。最後に盆踊りの『八幡馬』をみんなで踊り、「アーメンハレルヤ」を合唱して閉会となりました。聖霊の導きで多くの信徒に集まっていただき、素晴らしい交流会でした。神に感謝。

牧山 智廣（八戸塩町教会）

第2地区より

〈岩手沿岸ブロック／宮古教会〉 故郷 宮古での菊地功枢機卿

信仰の故郷と位置付けてくださる宮古教会での「枢機卿就任の感謝のミサ」をささげてくださった菊地功枢機卿様。



堀江神父と共に

一緒にミサにあずかってくださった岩手沿岸ブロックの釜石、遠野教会の皆様はじめ、大船渡、四ツ家、志家の教会、さらに水沢教会からは一番多くの

参加者がありましたことに感謝しております。また、宮古教会にゆかりのある方々も、中には新潟教区にお住まいのご家族はこの機会にと参加くださり、枢機卿様と久しぶりの対話ができたと喜んでおられました。ミサ後にすぐに集合記念写真の撮影をしましたが、大人数の中でも手際よく皆さん並んでくださり、短時間で撮影できました。



ミサの説教の中で話された、聖霊に満たされた聖堂になっていた！ように思われました。

会場を小百合幼稚園ホールに移しての昼食会は、山浦玄嗣(はるつぐ)先生の食前の祈りから始まりました。枢機卿様の挨拶と各教会紹介を手短にお願いして、地元宮古のおいしいちらし寿司弁当を味わっていただきました。宮古教会手作りのパウンドケーキも提供しました。久しぶりに他教会の方々を招いての会だったので、手落ちがあり行き届かない点はありませんでしたが、宮古教会をあげての協力で何とか進められました。(小百合幼稚園は宮古教会に隣接し、その園長は枢機卿の幼なじみの加藤敏子さんと、教皇フランシスコ来日の際「被災者の集いで」直に握手された方です。)



その席で、幼なじみの Sr. 中島久仁子さん（聖ウルスラ修道会会員）が枢機卿様を描いた絵画を皆様の前で紹介しプレゼントができました。各教会や、参加者が

枢機卿様との記念写真を撮っておられる様子に、皆様の枢機卿様に対する思いが感じられ、素晴らしい機会をいただいた事に心からの感謝の気持ちでいっぱいになりました。

宮古の信徒が一番大切にしたのは、毎日で大忙しで暮らしておられる枢機卿様が、故郷宮古では本当にゆっくり心身を休めて欲しい！という思いでした。

散策の途中の浄土ヶ浜で、宮古市の中村尚道新市長にも遭遇できたということもお恵みなのかも。

枢機卿様が挨拶の中で、東京教区でも信徒の減少により、教会の維持、継続の難しさを感じているそうですが、私たちの仙台教区でももっと、ましてやこの宮古教会でも難しさを痛感しているので、「神様の計らいに信頼して祈り続けてまいりましょう！」と、おっしゃられた言葉が胸にしみます。

「宮古帰省を機に、さらに『教会のために尽くしていきたい!』との思いを強くされた」と、お礼の手紙で書かれていました。それを拝読し、私たちも安心と、さらなる祈りの必要性を強く感じています。聖霊がいつもともにいてくださることを祈ります。感謝のうちに。 宮古教会委員長 伊藤 純子

第4地区より

〈仙台東部ブロック／塩釜教会・東仙台教会〉 こんにちは アンリ神父様！

2025年度司祭異動で、第4地区仙台東部ブロック担当の森田直樹神父の後任にアンリ・パディバン神父が発表されました。そして東仙台教会司祭館にお住まいになるとのことで、10年以上空き家状態の各部屋の壁紙張り替えとガスや水回りの工事、ベッドなど家具の準備、台所・風呂・トイレの清掃など、信徒がそれぞれできることを協力し合って、アンリ神父様をお迎えしました。優しい笑顔の神父様に信徒の皆さんは心が和みました。

仙台東部ブロックでの初ミサは、4月27日神のいつくしみの主日でした。まず8:30に塩釜教会、10:30から東仙台教会でミサがささげられました。祭壇には21日に帰天されたフランシスコ教皇の遺影が飾られ、ミサが粛々と進められました。「神父様の語られることばに感動して涙がでました。」と私に話して下さった方もいました。



アンリ神父様、新しい司牧地はいかがですか。主キリストの道を希望をもって歩み続けたいと願う私たちを、どうかよろしくお導きください。

阿部 正子（東仙台教会）

〈カテドラルブロック・仙台東部ブロック〉 仙塩地区「サマーデーキャンプ in 北仙台」

仙塩地区の教会学校リーダー会主催の「サマーデーキャンプ in 北仙台」が、8月2日(土)に行われました。午前10時、小学生の子どもたち22人とリーダー15人が北仙台教会信徒ホールに集まりました。

イグナシオ神父の「今日は、聖年のテーマに合わせ、『希望の巡礼者』として巡礼しましょう。仙台では、昔から信仰を守って生きてきた人々を大切にしています。その一人は、支倉常長です。この信仰の先輩のお墓参りをします」という挨拶の後、仙塩8教会から参加している子どもたち、リーダーも一緒に自己紹介をしました。参加者の中に、伊達武将隊のメンバーの1人「支倉常長」役をしている南木宏隆（なんもく ひろたか）さんもいました。

その後、聖堂に移動し、シスター大沼（聖ドミニコ女子修道会）が北仙台教会の紹介をしてくださいました。「十字架の道行」やステンドグラスの説明を聞きました。



教会の庭に移り、低学年と高学年に分かれ、スイカ割りの時間。残念ながら、2つのグループとも割れませんでした。昼食は、北仙台のご婦人たちが作ってくださった子どもたちの大好きなカレーライス。食後のデザートとして、スイカを食べました。

その後、南木さんがパワーポイントを使って、月の浦港から出帆し、メキシコ、スペイン、ローマまで行って帰ってきましたが、出発から帰国まで8年以上の月日がかかった、大変な旅でした。この間、支倉常長は、カトリック信者として洗礼を受けましたが、説明して下さった南木さんも、支倉常長の生涯を知るにつれ、ご自身もカトリック信仰に引かれ、洗礼を受けたという話をしてくださいました。南木さんも昔の話というだけではなく、支倉常長の信仰に結ばれたイエスの友達の1人となられたのです。



北仙台教会から巡礼の旅・徒歩20分。光明禅寺にある支倉常長のお墓とその側に建てられているルイス・ソテロ神父の記念碑に着き、お花をささげ、お祈りをしました。その後、お寺の本堂内部の壁一面に掲げられている、支倉常長が教皇パウロ5世に謁見している大きな絵を鑑賞しました。

北仙台教会に帰り、子どもたちを迎えにきたご両親たちも加わり、約50人の参加者が「子どもとともにささげるミサ」に参加しました。

イグナシオ神父様が説教の中で次のように話しました。

マタイ福音書の中で、ペトロは、イエスに「あなたはメシア、救い主です」と信仰宣言をしました。イエス様はそれに応え「あなたに天の国の鍵を授ける」とおっしゃいました。ペトロは、こうして初代の教皇となりました。その1500年後、支倉常長に会ったのは教皇パウロ5世でした。その400年後の教皇様が、現在のレオ14世教皇です。この教会の歴史は、世界の歴史であり、仙台の教会の歴史とも深い関係があるのです。

ミサが終わり、豊かな1日を過ごし、満足した子どもたちが、元気に我が家へと向かいました。

教区の諸活動



信徒宣教者 ジュリ・フェクトさんと歩いたミニ巡礼 一本杉教会のすばらしい体験

通常聖年である今年、仙台司教区では、各地区に一か所の巡礼教会が指定され、信徒の皆さんが、ご自分の体力に応じた巡礼教会を訪問し、祈ることによって、聖年の恵みが得られるように配慮されています。

ジュリ・フェクトさんは、ケベック外国宣教会の信徒宣教者ですが、仙台教区の司教様から、人々にキリストを伝える宣教者としての任命を受け、第4地区の司祭、信徒、教会共同体への宣教司牧に協力しています。



ジュリ・フェクトさん 仙台教区聖パウロ宣教センターの前で

聖年の今年、ジュリさんは、小教区単位で、巡礼をしたい人にまず話しかけようと計画なさいました。それは、彼女が巡礼について話しかけると、「私は、歩くのが苦手なので、巡礼はできないわ」という人や「巡礼はしたいけれども、ローマやエルサレムに行くの?」という人などさまざまいらっしゃいました。それで、まず、巡礼とはどんなものか、という約45分のパワーポイントを作り、ミサ後に皆様に見ていただくことにしました。

それによって、巡礼は祈りなのだ、神様のもとに行くために私たちが歩いていることのシンボルだと思いましたが、などの感想が寄せられ、皆さんから巡礼が受け入れられたと感じました。もちろん、サンチャゴ・デ・コンポステラなどのような長期にわたる巡礼ではありませんが、「どなたでもできるミニ巡礼」とでもいえる巡礼を企画しました。

こうして、まず、豊屋丁教会の希望者3人と共に、第1回目の巡礼をいたしました。

次に、6月22日、一本杉教会の希望者13人と共に、巡礼しました。教会でのミサ後、見送りの信者さんたちが、熱中症にならないように準備された水を飲



一本杉教会の方と巡礼で訪れた仙台キリシタン殉教碑

み、盛大な見送りを受けながら、第一のポイント・豊屋丁教会に向かいました。一本杉教会と豊屋丁教会は、同じ若林区内にあり、ご近所さんです。この日、一本杉教会の9時のミサをささげてくださったギャリー神父様が、11時から豊屋丁教会でのミサがあり、すでに来ていらっしゃいました。ここでまず、私たちは祈りをささげ、「希望の巡礼者」の歌を歌い、ギャリー神父様が、私たち巡礼者を祝福してくださり、豊屋丁教会の皆様から送り出されて、再び歩き始めました。

あまり人通りが多くない通りを前もって自転車で調べておいたので、その道を歩きました。巡礼の旅は、周囲の景色を楽しみながら、風も感じながら、神様を感じながら、自然に教会ではあまり話さなかった人ともみんなが親しくなり、祈りながら、お話ししながら、汗を拭きながら、歩きました。

私たちは、この巡礼に参加できなかった人々からの「祈りの意向」をたくさん預かっており、皆さんの祈りを込めた意向を入れた白い封筒を、交互にしっかりと持って歩き続けました。

こうして広瀬川のそばに立つ仙台キリシタン殉教碑の前に到着。そこで、まず、各自持参のお弁当タイムです。大きなおにぎりを食べる人などさまざまですが、お腹がすいていたので、見るだけで気持ちよい食べっぷりでした。皆さんもまた元気が出たようでした。

休憩のあと、殉教碑の前で祈り、賛美の歌をささげ、元寺小路教会に向かいました。

ここからは、元寺小路教会まではすぐ近くです。最後のがんばりどころ、とまた力を振り絞りました。

きれいに飾られた元寺小路教会の聖年の扉をくぐると、ベトナムの若者たちが、午後2時からミサのために、集まっておられ、「希望の巡礼者」の歌を、1番はベトナム語で歌ってくださり、2番は私たちが日本語で歌いました。

2階の小聖堂へ行き、福音書を読み、分かち合いをし、共同祈願をささげ、「主の祈り」をささげました。

元寺小路の信者さんたちが、冷たい麦茶を振る舞ってくださり、「巡礼のしおり」にみんなでスタンプを押し、皆さんは巡礼をやり遂げた満足感に満たされ、解散となりましたが、別れがたく、ここからも一本杉教会へ、皆さんと共に帰りました。

聖堂で感謝の祈りをささげ、キッチンへ。コップの冷たいお水を飲んで、帰宅しました。

今回の巡礼は33度の暑さの中、約7.5キロの道

を約2時間かけて歩いたことになりました。一人の脱落者もなく、みんなで、お互いの体調を気遣いながら、心を一致させて歩いた忘れられない記念の日となりました。

第4地区内の教会に声を掛けていますが、ある教会は、いち早く巡礼をすませたところもあり、他の教会は、計画中というところもありました。

また、聖パウロ宣教センターを巡礼者の宿として、提供したいと思っています。まだ、このことをご存じのない方も多いと思いますが、このチャンスを活かして、「希望の巡礼者」として巡礼教会などを巡ってご覧になることをお勧めいたします。

関 毅・Sr.長谷川昌子（仙台教区広報委員）

〈聖パウロ宣教センター〉 宣教活動の一つとして、巡礼する方などにもご利用いただけるように充実した設備が整っています。
※一般に向けての宿泊施設ではありません。ご利用いただいた方には献金をお願いしています。



聖堂



個室（シングルルーム）



個室（ツインルーム）



船員たちの母港：小名浜に誕生した ステラマリス 私たちの最初の「船員の日」

私は自分がいつかステラマリス（船員司牧）の活動に関わることになるとは、夢にも思っていませんでした。けれども、私のこの使命とのつながりは、気づかぬうちにずっと前から始まっていたのです。海上勤務中に重い病に倒れ、カナダで入院した船員の兄を、偶然にも私と母がニューヨークにいたため、ステラマリスからの一本の電話のおかげで見舞うことができました。当時の私は、ステラマリスを単なる団体の一つとしか思っていませんでした。その使命がどれほど深い思いやりに満ち、大切なものであるかなど、想像もしていなかったのです。

その理解が劇的に変わったのは、数年後、小名浜港でのことでした。

ある日、私はフィリピン人経営の小さな店に集まっていた、フィリピン人船員たちと出会いました。時はクリスマスシーズン。外はとても寒く、彼らは家族や故郷を遠く離れ、時間を持て余しているよう

でした。その光景を目にした瞬間、私の中で何かが動きました。海の上で、幾度となくクリスマス一人で過ごしたであろう兄のことを思い出したのです。その時から、「ステラマリス」は単なる名前ではなく、私にとって「召命」となりました。

彼ら（のちには女性たちも含まれました）は、単なる労働者ではありません。家族のため、世界経済のために、孤独と困難を静かに耐えてきた無名の英雄たちでした。彼らが求めていたのは、ただの支援や施しではありません。それは、彼らを迎え入れ、抱きしめ、尊厳を思い出させてくれる「母港」——心の拠り所でした。

そんな時、いわき教会の主任司祭である幸田和生司教が、私とマチアス・アントニオ神父に、かつて司教自ら祝別した「タムバヤン小名浜店」で活動するフィリピン人コミュニティとつながるよう勧めてくださいました。訪問したとき、20人以上の船員

たちが温かく迎えてくれました。彼らは、望郷の思いや信仰、世界各地のステラマリスの支援によって得た慰めを語ってくれました。とりわけ印象に残ったのは、クリスマスが近づく中、「誰かが自分たちを気にかけてくれるかもしれない」という希望に包まれた、静かなつながりへの渴望でした。

その出会いは、私たちの心に強い確信を植えつけました。小名浜港に、単なる支援の場としてではなく、霊的な「家」としてのステラマリスを創設する——。こうして、仙台教区のステラマリス・ミニストリーが誕生したのです。その使命は、船員だけでなく外国人労働者も受け入れ、フィリピン人、日本人を問わず、誰もが歓迎され、支えられ、愛されていると感じられる教会共同体を築くことにあります。

2025年1月19日から、私たちは毎月、タムバヤン小名浜店の2階で多言語ミサを行っています。この場所は、幸田司教によって祝別され、恵みの場へと変えられた、質素ですが、温かい空間です。教会の建物ではありませんが、心が宿っています。毎回、4～6人の船員と地域の信徒たちが参加しており、その多くはフィリピン人女性で、配偶者や子どもを持つ方々です。これらの集いは、単なる典礼の場を超え、信仰と共同体と癒やしが会う瞬間となっています。「あなたは一人ではない」——遠く離れた地で、そのように思い出させてくれるひとときなのです。

そしてこの7月、私たちは大きな節目を迎えました。「船員の日」の初めての記念ミサです。世界的には7月13日がカトリック教会で記念する「船員の日」でしたが、私たちは通常の第3日曜日ミサである7月20日にその記念を行いました。この日、ミサはガクタン エドガル司教が司式され、ステラマリス日本代表のギャリー・ゲストベオ神父、第5地区中通り北ブロック野田町教会のマチアス神父も共に奉仕してくださいました。



司教様を囲んで一月に一度のミサ

ガクタン司教は説教の中で、私たちが日々手にしている食料、衣類、道具などが、船員たちの犠牲によって届けられていることに触れました。彼らの存在はしばしば見過ごされ、その貢献は知られていま



小名浜で誕生したステラマリス

せん。でもこの日、私たちは声をあげました——「私たちは、あなたたちを見えています。感謝しています」と。

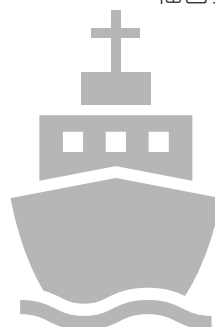
この日、参加者は24人、うち船員は12人。その中には、男性10人に加え、初めて女性2人も参加してくれました。彼女たちは実習生として航海に出ており、母校で訓練を受けた女性船員の第3期生でもあります。彼女たちの姿は、変わりゆく海運業界と、海で生きる女性たちのたくましさを象徴していました。

ミサの後には、ささやかですが心のこもった祝賀会を開きました。すべての船員に、ステラマリスのロゴが入った口ザリオを贈りました。それは小さな贈り物ですが、私たちの祈りと連帯のしるしです。多くの船員がそのロゴにすぐ気づき、笑顔を浮かべてくれました。「ここでもステラマリスがある」——異国の地でも、居場所があると感じてくれたのです。

それは、喜びと感謝、そして連帯にあふれた一日でした。この船員司牧がなぜ必要なのかを、あらためて思い出させてくれました。

私たちの歩みはまだ始まったばかりですが、マリア様が天使から神様のお告げを受けた時、「はい、FIAT」とおっしゃったように、私たちがステラマリスの必要性を感じ、これは神様が望んでおられることと分かり、「はい、FIAT」と微力ながら始めたことの実は、確かに感じられます。小名浜のステラマリスは、単なる支援活動ではありません。それは、母港なのです。人生の海を渡る人々にとって、迎え入れ、癒し、そして希望の場所——多くを与えながら、ほとんど何も求めない彼らのための母港。

クラリタ（クレア）・サンチェス
仙台教区 信徒宣教師



仙台教区現勢（2020年～2024年）

※単位：km²

I 概 況

面積	青森県・岩手県・宮城県・福島県 合計	45,987
----	--------------------	--------

※単位：人

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
人口	6,565,540	6,527,419	6,437,349	6,362,278	6,415,535
信者総数	9,822	9,653	9,359	9,076	8,970
入信志願者	40	41	27	35	26

※面積は、国土交通省国土地理院「全国届く府県市区町村別面積調」（2024年10月1日時点）、人口は総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」（2024年1月1日現在）より算出

※単位：人

II 人員構成

		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
教 区 司 祭	司教	1	1	2	2	2
	司祭	15	14	14	14	13
	助祭	0	0	1	0	0
	神学生	1	1	0	0	1
宣 道 会 他 司 祭	邦人司祭	1	1	1	2	2
	外国人司祭	14	11	11	12	12
	外国人神学生	0	0	0	0	0
修 道 者	邦人修道士	0	0	0	0	0
	外国人修道士	1	0	0	0	0
	邦人修道女	163	140	134	127	113
	外国人修道女	6	4	3	3	2
	修練者等	0	0	0	0	1
	在俗会	4	4	3	3	2

III 施 設

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
教会	52	52	52	52	52
巡回教会	5	5	5	5	5
集会所	0	0	0	0	0
男子修道院	1	1	1	1	1
女子修道院	18	16	16	15	14

※単位：人

IV 信徒の変動

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
信徒総数	9,616	9,477	9,190	8,913	8,822
転 入	教区内移動	29	26	21	35
	教区外移動	28	30	41	26
	その他の理由	3	0	4	7
転 出	教区内移動	30	27	13	21
	教区外移動	28	33	17	18
	その他の理由	1	5	96	65
居所不明	798	741	785	690	639
死亡	125	114	151	160	146

※単位：人

V 秘 跡

		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
洗 礼	幼児	14	14	15	19	25
	成人	57	53	36	55	44
	初聖体	86	50	31	59	46
	堅信	39	34	67	63	24
結 婚	信徒同士	1	4	4	9	4
	信徒・他キリスト教	1	0	5	1	0
	信徒・他宗教	4	5	6	2	3
	他宗教者同士	2	1	1	0	1

小教区別統計 1 (2024年1月1日～2024年12月31日)

※単位：人

県名	小教区名	信徒総数			居所不明	死 亡	転 入			転 出		
		男	女	計			教区内から	教区外から	その他	教区内へ	教区外へ	その他
青森	大 湊	17	30	47	0	1	0	1	0	0	0	7
	黒 石	2	10	12	1	1	0	0	0	0	0	0
	五所川原	4	13	17	0	0	0	0	0	0	0	13
	鮫 町	53	100	153	53	4	0	0	0	0	0	0
	十 和 田	21	57	78	25	1	1	1	0	0	0	25
	浪 打	103	195	298	3	7	0	0	1	0	0	0
	野 辺 地	1	5	6	2	0	0	0	0	1	0	0
	八戸塩町	102	224	326	67	10	4	0	0	0	0	0
	弘 前	97	147	244	30	9	0	0	0	1	0	0
	本 町	100	180	280	24	8	0	0	0	0	2	0
	三 沢	24	44	68	0	2	0	0	0	0	0	0
	小 計	524	1,005	1,529	205	43	5	2	1	2	2	45
岩手	一 関	55	101	156	0	2	0	0	0	1	2	0
	大 船 渡	57	111	168	1	2	0	0	0	0	0	0
	釜 石	5	18	23	0	1	0	0	0	0	0	0
	北 上	19	26	45	8	0	5	0	0	0	0	0
	久 慈	2	24	26	10	0	0	0	0	0	1	2
	志 家	59	124	183	0	2	1	0	0	4	0	0
	千 厩		23	23	0	0	0	0	0	0	0	0
	遠 野	22	43	65	1	1	0	0	0	0	1	0
	花 巻	20	61	81	0	0	0	0	0	5	0	0
	水 沢	18	49	67	0	0	0	0	0	0	0	0
	宮 古	12	40	52	0	4	0	0	0	0	0	0
	盛岡上堂	31	32	63	37	2	0	0	0	0	0	0
	小 計	439	922	1,361	57	20	10	0	0	11	6	2
宮城	石 巻	35	100	135	0	2	0	1	0	0	1	0
	一 本 杉	64	146	210	0	2	0	5	0	0	0	0
	大 河 原	40	54	94	0	2	0	0	0	0	0	0
	角 田	14	24	38	0	0	0	0	0	0	0	0
	北 仙 台	220	378	598	62	6	4	0	0	0	0	15
	気 仙 沼	48	61	109	0	3	0	0	0	0	0	0
	塩 釜	78	118	196	0	1	2	1	0	0	0	0
	白 石	25	37	62	0	2	0	0	0	0	0	0
	亙 屋 丁	34	50	84	31	1	0	0	0	0	0	0
	築 館	15	14	29	2	0	1	1	0	0	0	0
	西 仙 台	66	94	160	0	2	0	0	0	0	0	0
	東 仙 台	71	177	248	1	5	3	0	0	2	2	0
	古 川	38	57	95	0	1	0	0	0	0	0	0
	元寺小路	505	806	1311	68	21	3	8	0	5	2	0
	八 木 山	76	105	181	33	2	6	1	0	0	0	0
	米 川	2	9	11	0	0	0	0	0	0	0	0
	小 計	1,364	2,286	3,650	197	51	19	17	0	7	5	15
福島	会津若松	83	149	232	18	10	0	3	0	1	0	0
	い わ き	166	283	449	0	5	0	3	5	0	2	0
	喜 多 方	30	45	75	15	0	0	0	0	0	0	0
	郡 山	179	393	572	106	3	0	1	1	0	1	3
	白 河	63	65	128	29	0	0	0	0	0	0	0
	須 賀 川	5	20	25	12	0	0	0	0	0	0	0
	二 本 松	2	18	20	0	2	0	0	0	0	1	0
	野 田 町	50	73	123	0	3	1	0	0	0	0	0
	原 町	20	48	68	0	2	0	0	0	0	1	0
	松 木 町	193	369	562	0	7	0	0	0	0	0	0
	南 会 津	11	17	28	0	0	0	0	0	0	0	0
	小 計	802	1,480	2,282	180	32	1	7	6	1	5	3
教区合計		3,129	5,693	8,822	639	146	35	26	7	21	18	65

小教区別統計 2 (2024 年 1 月 1 日～2024 年 12 月 31 日)

※単位：人

県名	小教区名	洗 礼		堅信	入信 志願者	結 婚				ミサ参加者平均数			教会学校			な 勉 ど 強 会
		幼児	成人			信徒 信徒	信徒 他のキリ スト教	信徒 他宗教	他宗教 他宗教	主 日	復 活	降 誕	幼・小	中	高～	
青 森	大 湊		1							11	18	10				
	黒 石									7	10	10				
	五所川原									7	9	31				
	鮫 町				1					15	11	24				1
	十 和 田									18	40	66				
	浪 打	1	3	2						80	98	123				
	野 辺 地									4		6				
	八戸塩町	3	2		3					110	180	200				9
	弘 前	1			2					55	77	65				14
	本 町							1		84	140	155				
	三 沢									15	30	30	2	1	1	
	小 計	5	6	2	6	0	0	1	0	406	613	720	2	1	1	24
岩 手	一 関				1					25	50	90	1			7
	大 船 渡									15	30	46				
	釜 石				3					15	30	30				3
	北 上	6								18	50	50	5			
	久 慈									10	25	35				
	志 家	1						1		30	60	60	1	2		
	千 厩															
	遠 野		1							10	15	17				
	花 巻									25	50	50				
	水 沢	1								18	30	33				
	宮 古		4	3	2					12	37	59				6
	盛岡上堂		1							12	23	23				
	四 ッ 家		3		1					71	92	102	2	2		9
	小 計	8	9	3	7	0	0	0	1	261	492	595	9	4	0	25
宮 城	石 巻	1	1							35	55	70				4
	一 本 杉									60	79	125				6
	大 河 原	1								18	28	32				
	角 田	1								6	7	40				
	北 仙 台		2							75	140	370	5	4		
	気 仙 沼	1								21	38	58				
	塩 釜									25	30	45	2			
	白 石		1	1						10	10	15				
	豊 屋 丁									19	30	39				
	築 館									6	10	20				
	西 仙 台									22	31	54				
	東 仙 台		2	2	1					90	90	150				
	古 川		1	1						20	25	45				4
	元寺小路	1	17	11	10	3		1		300	450	750	17			84
	八 木 山									40	50	60	9		2	
	米 川									5	8	10				
	亘 理									11	27	51		2	4	7
	小 計	5	24	15	11	3	0	1	0	763	1,108	1,934	33	6	6	105
福 島	会津若松	2								50	60	70				15
	い わ き	3	1							75	130	140				10
	喜 多 方									10	20	40				
	郡 山		1	2	1			1		91	221	223				
	白 河	1								33	54	53	2			
	須 賀 川									10	20	24				
	二 本 松									11	14	24				
	野 田 町	1	1	1		1				90	120	160	2			27
	原 町									20	74	69	9			14
	松 木 町		2	1	1					102	126	164	2			30
	南 会 津									15	18	20				
	小 計	7	5	4	2	1	0	1	0	507	857	987	15	0	0	96
教区合計		25	44	24	26	4	0	3	1	1,937	3,070	4,236	59	11	7	250

司 祭 紹 介

ジャスティン・ルクサ・メンデ（淳心会）

○生年月日 1981年 3月28日
○出身国 コンゴ民主共和国
○司祭叙階 2013年 10月1日
コンゴノムブジ・マイ教区カテドラル



はじめまして、私は淳心会の「ジャスティン・ルクサ・メンデ」と申します。ジャスティンとは「Justin」の英語から作られた名前であり、私の霊名です。日本語では聖ユスチノとも呼ばれます。6月1日が祝日です。ジャスティンという名前は「ジャスミン」に間違いやすいといわれます。皆様が覚えやすい名前で声をかけてくださったら、それで大丈夫です。

私はコンゴ民主共和国の出身です。7人の兄弟の5番目です。18歳で神様の宣教師への呼びかけに応え、1999年には淳心会の神学生志願者として修道生活を始めました。それから哲学の勉強を卒業し、一年間の修練期を終えてから、淳心会の会員として初誓願をたてました。その後、2004年の10月にフィリピンへ行き、6カ月間、英語の勉強をしてから神学の勉強をしました。2009年の9月に来日しました。

日本では2年間ぐらい大阪に住み、ECC 国際外国語専門学校で日本語と日本の文化などを勉強しました。その後、東京大司教区のカトリック松原教会で日本での宣教司牧の見習いをしました。2013年4月28日に助祭叙階の恵みを受け、同年10月1日にはムブジ・マイ教区のカテドラルで司祭叙階の恵みをいただきました。2014年に司祭としてモンゴルの宣教地に派遣され、10年間、モンゴルの淳心会とモンゴルのカトリック教会のために一生懸命さまざまな宣

教活動をしました。特に最後の5年半は聖ペテロと聖パウロカテドラルで司牧しました。

2024年6月15日には再び淳心会日本地区に戻り、仙台教区へ司牧研修のために派遣されました。八戸に住んで13カ月ほどになりますが、まるで自分の故郷にいるような感じで、特に自然と触れ合えるのがうれしいです。にぎやかな大都市とは違って、ここは静かで落ち着いています。本当に幸せで大好きです。

今年4月に第1地区三八ブロックの協力司祭として司教様に任命されました。これからは今まで以上に日本語の勉強に励み、東北の文化を学びながら、皆様と共に神の道を歩んでいきたいと考えています。まだまだ学ぶべきことがたくさんあると感じております。仙台教区はかなり広い上、特に私が現在司牧している第1地区では司祭の数が不足しており、確かに多くの問題がございます。しかし、それらの多くの問題の向こうには、多くの機会も存在します。希望と献身に満ち、神様の祝福と導きを頼りに、皆様のご支援とともにさまざまな教会共同体の皆様の司牧と交わりができるように、今後とも応援のほどよろしくお願いいたします。

カトリック教会が行う寄付について

【注意喚起】

最近、枢機卿や司教の名前をかたった寄付のお願いが問題になっています。寄付に関する被害を防ぐため、次の点にご注意くださいますようお願いいたします。

1. 小教区における寄付は、原則として、担当司祭の承認のもとで行われます。疑問が生じた場合は、担当司祭にご相談ください。

2. 教区で呼びかける寄付は、必ず司教の承認のもとで各小教区からお知らせします。疑問が生じた場合は、担当司祭にご相談ください。

3. 司教団が呼びかける寄付は、必ずカトリック中央協議会のウェブサイトで公示されます。公示のない寄付要請には、決して応じないようお願いいたします。



イグナシウス・クリスティアヌス・バサ（神言会）

- 生年月日 1979年10月8日
- 出身国・地 インドネシア共和国 レンバタ島
- 司祭叙階 2009年10月18日
インドネシア／神言会レダレロ大神学校

私は神言会会員のイグナシウス・クリスティアヌス・バサ神父です。インセンと呼んでください。インドネシアから来ました。1979年10月8日にレンバタ島に生まれました。

私が子どもの頃、村に二人の神学生がいました。神学校の休みに村に戻って来て、いつも教会でみことの祭儀を担当して、説教も素晴らしかったです。そのとき、父親に、私は「将来、二人の神学生みたいになりたいなあ」と言ったら、父親は「だったら小神学校に入らなければならないんだよ」と教えてくれました。それで、1995年に小神学校に入りました。こうして、司祭になる道を歩み続け、2008年8月15日に終生誓願を立てました。翌年の2009年5月に助祭叙階を受け、2009年10月18日にフローレス島にある神言会のレダレロ大神学校で司祭叙階の恵みをいただきました。

2010年4月に日本に来て、南山大学で日本語の勉強をはじめました。2012年日本語の勉強が終わり、長崎にあるルドヴィコ小神学校で約1年間、司牧活動に従事しました。その間、日本の運転免許をとりました。

2013年4月に仙台教区に入りました。四ツ家教会に住みながら盛岡にある三つの教会と花巻教会、北

上教会、宮古教会で司牧しました。

2017年に名古屋教区の平針教会を担当させていただきました。6年間の平針教会での司牧を終えて、2023年に新潟教区の土崎教会と本荘教会を担当しました。

2024年1月1日に能登半島地震が発生したため、1月から5月まで石川県でボランティア活動をしました。

2025年4月から仙台教区に派遣され、大船渡教会に住みながら第3地区三陸ブロックを担当させていただいています。

司祭としての歩みの中でいろいろなことを経験します。うれしいこともありました、辛いこともあります。成長したこともありました、失敗したこともあります。しかし、いつも希望をもって前に進んでいきたいと思っています。その希望は個人的な祈りの中で、ミサの中で、信者さんの励ましのことばの中で受けてきました。だから、この人生の旅路の中でどんなことがあっても、希望を失わないで、神様に信頼して、神様のご計画を見つけて、前に進んでいくことが大事なことだと確信しています。

2025年度(第2次)司祭人事異動

2025年9月1日(月)実施

新任地	氏名(所属)	居住	前職・前任地
第4地区 仙台南部ブロック担当	ロメロ アルマンド ツマリワン(淳心会)	司教館	淳心会本部
教区外へ異動	氏名(所属)	前任地	
	ギャリー ゲストベオ(淳心会)	第4地区仙台南部ブロック担当	

編集後記

今回、2人の信徒宣教師を通して教区で取り組んでいる活動を紹介する事ができました。それぞれ表立ってはいませんが大切な活動です。教区では、ほかにもさまざまな活動が行われていますので、ご紹介してまいります。また、ギャリー神父様にはこれまで、仙台教区内の各地で長年お働きいただきました。本当にありがとうございました。

仙台教区広報委員会では、皆様から原稿を募集しています。投稿は随時受け付けていますので、下記のアドレス宛てにメールで添付ファイルでお送りください。手紙の場合は教区事務局宛てに郵送してください。(関 毅) c-hasegawa@blue.ocn.ne.jp 次号発行予定日: 11月1日(土) 原稿締め切り日: 9月21日(日)